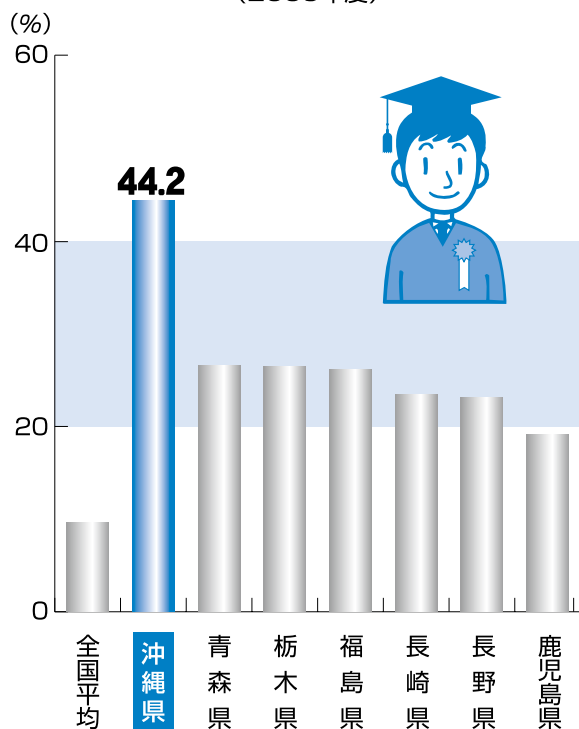


【個人立専修学校の割合】

個人立専修学校の割合
(2009年度)



44.2%

教育の必要性を感じた程順則が「明倫堂」を建てたのが、琉球の学校のはじまり…。うちなーんちゅは、教育に熱い志をもった人が多い？

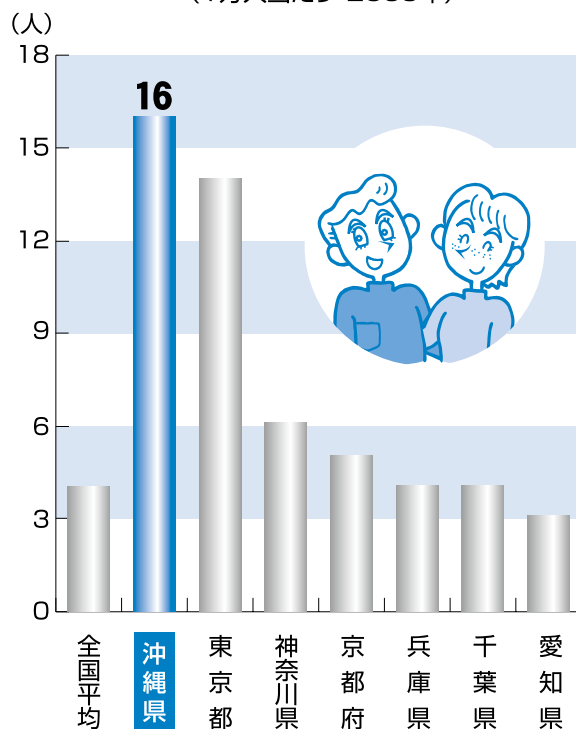
文部科学省「2009年度学校基本調査」によると、県内専修学校のうち、個人立の割合は44.2%と全国一。法人立が多い全国と比べ、沖縄は個人立が多いのだ。学校規模の影響もあろうが、教育に関心の高い個人経営者が多いのか。個人立は、相続等の問題から、法人化への動きもみられる。一方、中学・高校等の一般の学校は、個人では設置できない。専修学校は、入学対象者が種類が分かれる。一般に専門学校と呼ぶのは、高卒以上が対象の専修学校。中卒以上が入学できる高等専修学校は、学科数こそ少ないが、4月からスタートした就学支援金の対象である。

時代により学校の在り方が変わっても、教育への思いは変わらない…。

(海邦総研事業支援部／金城智裕)

【県人口1万人当たりの米国人】

在日アメリカ人の数(米軍を除く)
(1万人当たり・2009年)



16人

ペリーの来航依頼、昔も現在もアメリカとの関わりが深い沖縄。県内にはどれくらいのアメリ人が住んでいるのだろうか。

法務省「登録外国人統計2009」によると、沖縄県内に在住するアメリカ人の数は2182人(米軍を除く)。人口1万人あたりに換算すると16人。東京都の在住アメリカ人は1万8568人と数では圧倒的に多いものの、人口1万人当たりでは沖縄の方が多く、大都市を抑えて全国1位の水準だ。

厚生労働省「人口動態調査」によれば、県内の国際結婚ではアメリカ人との婚姻が最も多く、2009年には273件。全国3位の水準だ。

一方で、県内には実に98カ国もの外国人が在住している。沖縄にいながらにして、世界各国と異文化交流ができるのだ。あなたは、どこの国の方と友好を深めたい？

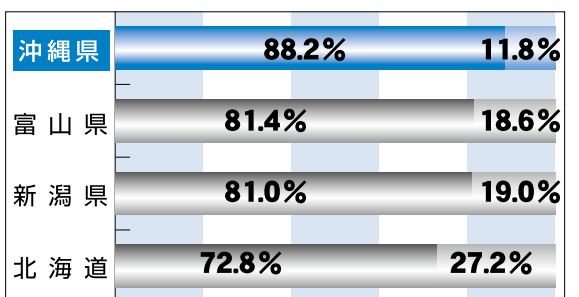
(海邦総研経営企画部／新里治史)

【森林面積に占める天然林】

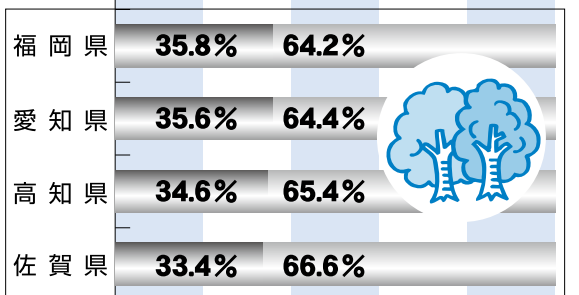
森林面積に占める天然林の割合

天然林 人工林

天然林率の高い県



天然林率の低い県



0 20 40 60 80 100 (%)

88.2%

多種多様な稀少生物が生息するやんばるの森、東洋のガラパゴスといわれる西表島…。固有の気候・地理的条件が織りなす亜熱帯の森は、旅行者の自然志向や癒しブームを受け、有望な集客素材として注目されている。

林野庁「森林資源の現況(2007年度)」によると、沖縄県は森林面積に占める天然林の割合が88.2%と、全国で最も高い。人工林の割合はわずか11.8%だ。日本の森林面積が国土の67.3%を占めるのに対し、県内では46.2%。森林率は低いものの森林の多くが手つかずの天然林である。

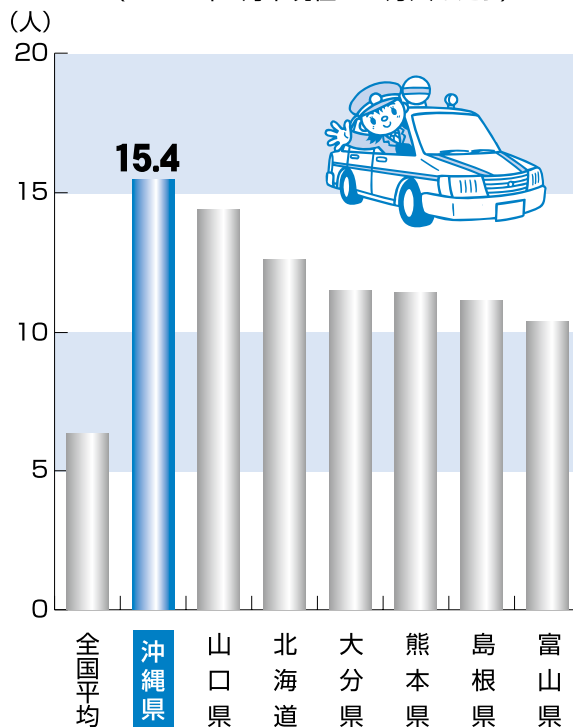
エコツーリズム推進法の施行以降、各地で自然環境の保全、環境教育、観光振興などへの取組みが活発化している。豊かな森林を効果的に観光振興に結びつけるには、残された資源や生態系の価値の十分な理解のもと、保全と振興のバランスを考慮した活用が進むことを期待したい。

(海邦総研経営企画部／大井佐和子)

【タクシーの女性乗務員】

タクシーの女性乗務員数

(2009年3月末現在・10万人あたり)



15.4人／10万人

沖縄の大事な交通手段として、県民の足として、広く利用されているのがタクシーだ。最近では女性の乗務員を見かける機会が増えてきたように感じる。数字でみてもやはり実際に増えているようだ。

全国ハイヤー・タクシー連合会「女性乗務員採用状況調査」によると、2009年3月末現在の沖縄県の女性乗務員は214人。これを人口10万人あたりに換算すると15.4人と全国で最も多い。女性乗務員が200人以上なのは都市部を中心に13の都道府県に限られ、九州では福岡県に次いで2番目に多い。

女性乗務員ならではの気配りや心遣いと、おばあ文化に代表されるたくましさで、これからの活躍が期待される。ゆんたく上手な女性乗務員が増えると、タクシーに乗る楽しみがまた一つ増えそう。

(海邦総研経営企画部／国吉真吾)